



河北潟について

県内最大の面積を持つ河北潟は、石川県のほぼ中央に位置し、かつては「蓮湖」又は「大清湖」と呼ばれていました。近年では河北潟流域は都市化が進み、生活排水の影響などで水質汚濁が進行しました。

このことから、平成7年3月に石川県知事から生活排水対策重点地域の指定を受け、第一次河北潟流域生活排水対策推進計画（以下「推進計画」という。）を策定したことを始まりとして、この計画に基づきさまざまな組織団体が連携し、河北潟の水質浄化のために活動をしています。

また、平成27年3月には、「第二次河北潟流域生活排水対策推進計画」が策定され、この計画に基づき水質浄化への取り組みが続けられています。

河北潟の水質

河北潟では、利水目的である農業用水の水質を確保し、河北潟周辺の自然環境と魚類が成育できる水質の保全を目標に、昭和52年4月に水質汚濁にかかる環境基準の湖沼B類型に設定されました。

同時期に、河北潟に流入している5つの河川（金腐川、森下川、津幡川、能瀬川、宇ノ気川）についても環境基準が設定されました。

その後、昭和62年3月に富栄養化の原因物質である窒素とリンの削減を図ることを目的に、全窒素と全リンに対しても環境基準が設定されました。

下の表は、基準と平成30年度時点の現状を示しています。

項目	平成8年度	平成17年度	平成30年度	
	計画策定時	中間年次	現況	目標数値
COD（75%値）※	11	8.2	5.4	5.0
全窒素（年平均値）	1.1	1.3	0.94	0.6
全リン（年平均値）	0.11	0.11	0.084	0.05

※ CODとは、水の汚れ（有機物）を酸化剤で酸化する時に必要な酸素の量のこと、化学的酸素要求量ともいいます。湖沼や海の水の汚れぐあいを表す時に単位として使われ、数値が大きいほど水は汚れています。75%値とは、水質などを1年間にわたり毎月調べた場合、低い方から9番目の数値をいいます。河北潟など湖沼で、CODの値が環境基準を超えたかどうかを見るときは75%値を使います。

生活排水処理施設整備状況について

2市2町（金沢市、かほく市、津幡町、内灘町）では推進計画に基づき公共下水道をはじめとした生活排水処理施設の整備促進を図ってきました。水洗化・生活雑排水処理施設の整備率は、平成30年度末時点で98.9%となっており、推進計画策定時の平成6年度末時点の36%から比べて大幅に整備が進んでいます。

今後も2市2町は、公共下水道への接続率の向上や生活排水処理施設の維持管理など生活排水対策を推進していきます。

河北潟流域生活排水処理施設整備状況（計画区域内総括表）

項 目	平成6年度末		平成17年度末		平成30年度末	
	計画策定時現況		中間年次現況		普及率現況	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合
流域内人口	110,570	100.0	125,752	100.0	124,219	100.0
水洗化・生活雑排水 処理人口	39,836	36.0	106,054	84.3	122,864	98.9
公共下水道	24,965	22.6	93,664	74.5	113,489	91.4
集落排水処理施設	1,624	1.4	8,294	6.6	7,300	5.9
合併処理浄化槽・ コミプラ	13,247	12.0	4,096	3.2	2,075	1.7

平成30年度末 河北潟流域における生活排水処理施設の普及率と接続率

市町名	流域内 人口	公 共 下 水 道				集 落 排 水 施 設				浄化槽、ミソ等		合 計			
		処 理 人 口	普 及 率	接 続 人 口	接 続 率	処 理 人 口	普 及 率	接 続 人 口	接 続 率	処 理 人 口	普 及 率	処 理 人 口	普 及 率	接 続 人 口	接 続 率
金沢市	58,882	54,828	93.1	52,514	95.8	2,977	5.1	2,836	95.3	660	1.1	58,465	99.3	56,010	95.8
かほく市	19,937	16,839	84.5	15,919	94.5	2,915	14.6	2,847	97.7	158	0.8	19,912	99.9	18,924	95.0
津幡町	37,347	33,878	90.7	31,256	92.3	1,408	3.8	1,215	86.3	1,175	3.1	36,461	97.6	33,646	92.3
内灘町	8,053	7,944	98.6	7,434	93.6	0	0.0	0	0.0	82	1.0	8,026	99.7	7,516	93.6
合計	124,219	113,489	91.4	107,123	94.4	7,300	5.9	6,898	94.5	2,075	1.7	122,864	98.9	116,096	94.5

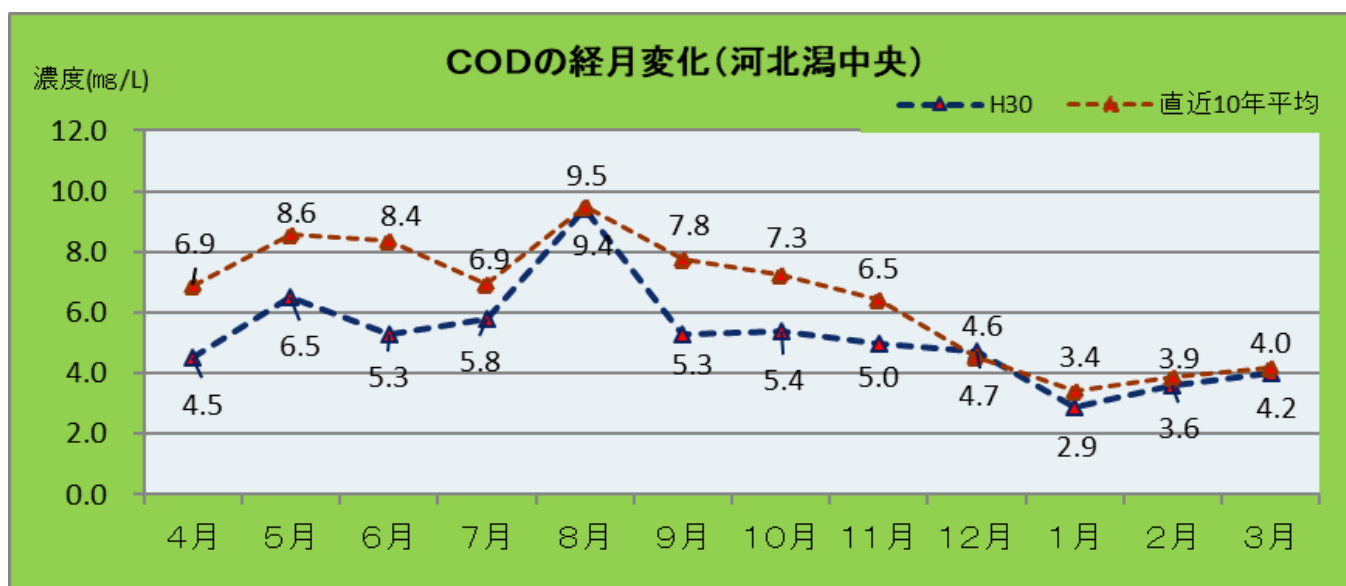
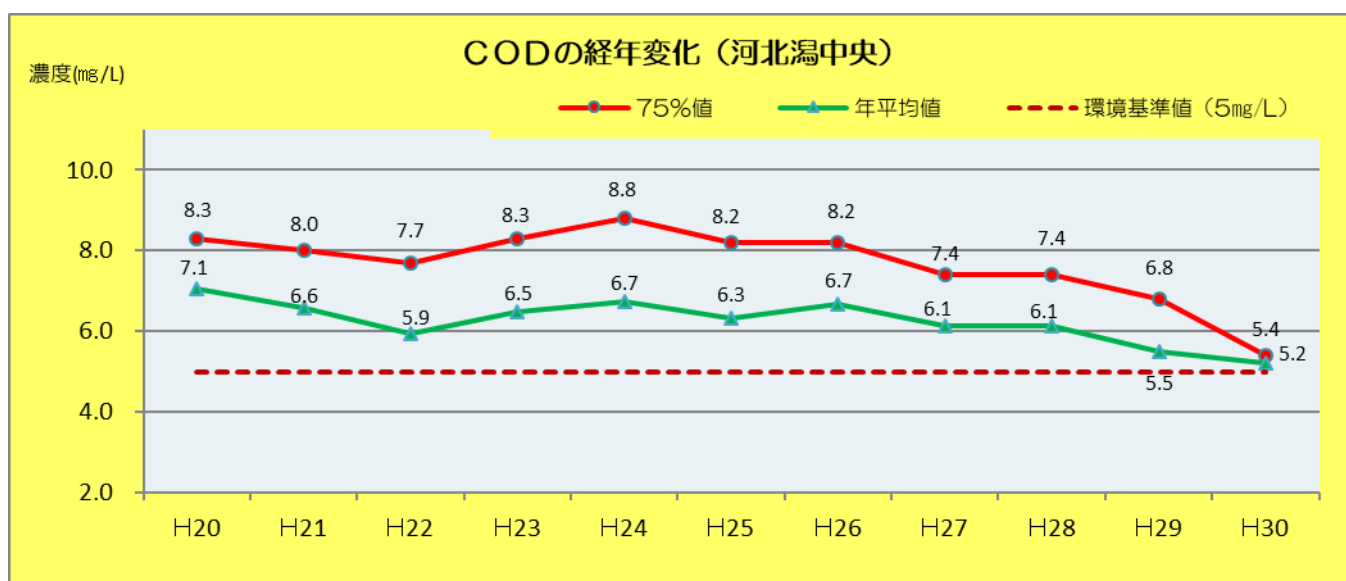
CODで見る河北潟の水質

河北潟のCODの経年変化と経月変化のグラフを示します。

まず、経年変化ですが、数値（75%値）は、平成24年度には1Lあたり8.8mgでしたが、年々改善の傾向にあり、平成30年度には5.4mgまで改善しています。

経月変化では、4月から11月にかけて高く、12月から3月までの間は低い傾向があります。

水質は、環境基準を達成していないものの、徐々に改善していることから、これまで2市2町が取り組んできた生活排水対策を継続していくとともに、農林事業者の方々への啓発や協働による水質改善策を研究していくことも必要と考えます。



河北潟水辺の小学校(参加型体験学習)

「河北潟水辺の小学校」は、河北潟水質浄化連絡協議会が毎年行っている環境学習の行事です。

今年度は、環境学習に取り組む学年の5年生を対象に、こどもたちの河北潟に対する理解や興味を促進することを目的として、河北潟周辺での展望台からの観察、水質検査体験、水辺の生き物観察会などを実施しました。河北潟周辺に生息する生き物の観察にみんな夢中になって取り組みました。

【河北潟水辺の小学校の行事】

行事名	内容	講師	活動場所	参加人数
河北潟 水辺の小学校	河北潟展望会	市・町の担当職員	内灘町サイクリング ターミナル展望台	34名
	水辺の 生き物観察会	石原 一彦 氏 (石川県希少種保全推進員・石川 県両生爬虫類研究会) 出島 大 氏 (河北潟いきもの博士)	こなん水辺公園	329名
	水質検査体験	市・町の担当職員	・こなん水辺公園 ・津幡漕艇競技場 ・大浦排水機場	
	排水機場見学	河北潟沿岸 土地改良区職員	大浦排水機場	99名

参加してくれた小学5年生の皆さん

令和元年9月30日

令和元年10月21日

令和元年11月6日



津幡町立英田小 34名



金沢市立森本小 99名



内灘町立白帆台小 59名

令和元年11月7日

令和元年11月8日

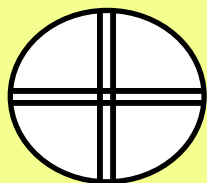


かほく市立宇ノ気小 108名



津幡町立萩野台小 29名

透視度計で河北潟の水の実験！



底を覗くとはっきりと
十字が見える…



透視度計に水を入れて…

水道水



河北潟の水



河北潟の水の透明度を検査しました！



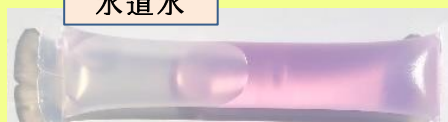
CODパックテストで水の汚れを検査！



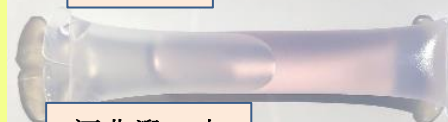
3種類の水を使って検査してみよう！



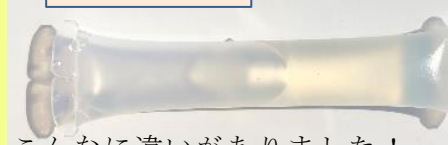
水道水



砂糖水



河北潟の水



こんなに違いがありました！

河北潟周辺の生き物を観察しました！

頑張って探すぞ～



何がいるかな？



たくさん見つけた！

河北潟周辺の生き物たち

どんこ



ヒメタニシ



もつこ



河北潟での環境活動で石川県の小学校が表彰されました！



公益社団法人食品容器環境美化協会 第20回環境美化教育優良校等表彰 (2020.1.31 於 東京都)

学年に応じたひとり一人の美化活動がふるさとの豊かな景観を守る

協会会長賞 石川県 津幡町立条南小学校

古くから干拓が行われ、県内一の規模を誇る河北潟の近くに位置する同校。恵まれた水郷で、野鳥の宝庫として知られていますが、数十年前は水質悪化やポイ捨てごみが深刻でした。下水道整備を始め、町を挙げたさまざまな取り組みが奏功し徐々に改善されています。

2007年から児童が活動を開始した「河北潟調査隊」もそのひとつです。主に5年生が総合的な学習の時間に、河北潟の歴史や存在意義について、水質・動植物調査、農業の体験を通して学んでいます。農業体験では、牛がペットボトルや空き缶の破片を誤食する可能性を、水質検査では、目立ったごみが見られなくても、水質汚濁につながる測定結果が出る現実を問題視するなど、児童が身近な環境に目を向けるきっかけとなりました。

また、同校に隣接し、児童や住民に親しまれている「中条公園」では、2、4年生が散乱ごみの回収活動を実施しています。公園内にある池は、用水路を通じて河北潟と行き来する魚が見られ、その調査などを行いながら、身近な自然を守るために自分たちが出来ることを考え、美化活動に励んでいます。それでもなくならないごみのポイ捨てを痛感した児童は、散乱防止のポスターを作成し、公民館や店などに掲示を依頼しました。津幡町条南公民館の細山勝英館長は、「ごみがない町は犯罪も起きにくいと感じています」と児童の活躍を歓迎します。

こうして学年ごとに、ひとり一人が行動に移す実践力を養いながら迎える最終学年では、「親子資源回収」に取り組み、理科で学ぶ電気とエネルギーの有効利用の観点から、保護者と全校区をまわりながら資源のリサイクルに努めています。さらに、今まで行ってきた河北潟調査隊や中条公園の美化活動にはどんな価値があったのかを、最後に振り返って児童が実感できるような教育に結びつけています。

津幡町はボートの町としても知られ、河北潟では毎夏、「つばたレガッタ」大会が開催されています。同校の児童や教員もチームを組み毎年参加し、そこで培われた連帯感や達成感が、ふるさとへの愛着を育み、豊かな景観維持に一役買っています。



写真上：河北潟調査隊で水質検査を行う5年生
2番目左：中条公園近くの用水路で散乱ごみや雑草を回収する4年生
右：ごみ散乱防止のポスターを作成し、地域の店へ掲示を依頼
3番目：資源ごみ回収を行う6年生
下：河北潟で開催されるつばたレガッタ大会に挑む児童チーム

(参考)

公益社団法人食品容器環境美化協会